著者とひととき

作家との遭遇

沢木耕太郎さん

「『作家になりたい』と思ったことは一度もありませんでした」

ノンフィクションから小説まで、多彩な作品を発表してきた沢木耕太郎さんの発言としては意外に感じられるかもしれない。しかし、これまで書いた作家論を全て収録した「作家との遭遇」を読むと、真意がおぼろげながら見えてくる。

取り上げるのは井上ひさしさん、向田邦子さん、米作家カポーティらさまざま。例えば、井上さんについては「どのような職業でも似合いそうな風貌」などに着目し、希代の書き手に「詐欺師」の才能を見いだす。

「批評家ならテキストを精緻に分析するでしょうけど、例えば吉行淳之介さんについても、僕は2人でくだらない話をしたことについて書いている。でもその中から、ある単純な、しかし素晴らしい何かをつかみ取ることができるのではないか。そんな思いがあるのでしょうね」

強い印象を残すのが、フランスの作家カミュを取り上げた大学の卒業論文「アルベール・カミュの世界」だ。「拙いところ、幼いところはあるけど、ほとんど今の自分と変わっていません」。学術論文らしからぬ私的な思索をぶつけるような文章からは、人間の孤独を凝視するカミュに深く共感する、若き日の沢木さんの姿が浮かぶ。

「『女』という絶対的な他者をどう理解するのか、理解し切れなくてもいいのか。その煩悶に自分を重ね合わせたのだと思います」。カミュから学んだのは、「他者」とは理解不能だと知りながら、それでもそれぞれの「正義」を認め、知ろうとする態度。「偶然」が重なって始めたという、取材して書くという仕事は、その人間理解の実践でもあった。

昨年9月には過去25年のエッセーをまとめた「銀河を渡る」を本書に先駆けて刊行。そこにはノンフィクションとフィクションの境を模索し、「旅」を続けてきた作家の足跡が記録されている。

「境目をゆっくりと泳いでいくことで書ける、新しいフィクションがあるのではないか。そこまで到達したいですね」

（「作家との遭遇」は新潮社・1944円）

さわき・こうたろう　1947年東京生まれ。「テロルの決算」で「一宅壮一ノンフィクション賞、「瞬の夏」で新田次郎文学賞など受賞多数。他の著書に「深夜特急」「キャパの十字架」など。

読書

平場の月

朝倉かすみ　著

あさくら・かすみ　1960年北海道生まれ。作家。「肝、焼ける」で小説現代新人賞。「田村はまだか」で吉川英治文学新人賞。

中学校の同級生だった2人が、50歳になって地元で再会する。この物語の主人公である青砥健将と須藤葉子の再会は偶然だが、50歳を契機に同窓会などが開かれた、という話はよく聞く。

多感な時期を共有した同い年の人間というのは、特別な存在なのである。卒業後、全く別の場所で暮らしていたとしても、平等に時間は流れ、同じ時代を生き抜いてきたのだ。50歳を過ぎても、あのときあの子が好きだったなんて話は、よく交わされる。いや、50歳を過ぎ、自分の人生が見渡せるようになったからこそ、自分の原点のような気持ちを掘り起こさずにはいられなくなるのではないだろうか。

青砥は離婚、須藤は夫と死別し、ともに1人暮らし。再会したのは病院。青砥が検査に訪れ、病院の売店で働く須藤と出くわしたのだ。病への不安がぬぐえないでいる青砥に「景気づけ合いっこしない？」と須藤が誘ったことから、少しずつ距離が縮まっていく。しかし、実は、須藤の方にも大きな不安があった…。

中学生時代に、青砥は須藤にふられている。そのほんとうの理由が、少しずつ親しくなる中で分かっていく。若いときの直情的なものではなく、紆余曲折した人生の果てで、つつましく、思いやり深く関係を築いていく様子が、心に沁みる。

なにしろ、物語冒頭で、須藤が亡くなっていることが明かされるのだ。彼らがどのような時間を過ごし、どのように心を見せ合い、あるいは隠し、そして別れたのか。もどかしいやりとりが続くからこそ引きつけられる。

語り、食べ、眠る。時々携帯電話でメッセージを送る。淡々と日常を重ねているだけで、特別なことが起こるわけではない。少々くたびれてきた体での、残された時間の一瞬一瞬が、シビアに描かれる。だからこそ、生きることの希有な美しさに触れた気がする。

タイトルの「平場」は普通の生活を象徴する。頑固な須藤の「ちょうどよくしあわせなんだ」の一言が、読後に強く響く。

（光文社・1728円）

評・東　直子（作家、歌人）

日常重ね 生きる美しさ

泥海

陣野　俊史　著

じんの・としふみ　1961年長崎県生まれ。作家、文芸評論家。著書に「じゃがたら」「世界史の中のフクシマ」「テロルの伝説　桐山襲烈伝」など。

おそよ日本語で書かれる以上、登場人物も舞台も、そして起こる事件も、大半が日本に関係するものでなければ共感を得られないし、社会性ある主題ならばなおさらだ…。これが「純文学」というジャンルの暗黙の前提である。だが、本書「泥海」は、その種のお約束を根底からひっくり返してしまう野心作だ。

描かれるのは、フランスで2015年初頭に起きたシャルリエブド襲撃事件、およびモンルージュ警官襲撃事件、ユダヤ系食品スーパー襲撃事件だ。

本書は、事件が世界に残した痛みの性質を探る試みである。それも、警官隊に射殺された犯人たちの「声」をジャックし、事件後に彼らの来歴を振り返るかたちで、小説が進められていくのだ。

わかりやすい「心の闇」は開陳されない。代わりに、犯人の妹が書いた手紙や、「イスラム過激派」に随伴した女性の手記が挟み込まれ、内省を欠いた男たちの語りが内側から解体される。

閉塞する現実を行動で打破せんとするラジカルな姿勢への共感と、その暴力を相対化させる現実の多層性が、同時に示されるという仕掛けだ。こうした技法を著者は、以前評伝を書いた作家の桐山襲から学んだのだろう。

後半になると、突如、長崎県諫早市をモデルにした街に生まれた、犯人たちと同世代の日本人男性の語りまでもが挿入される。

ここで解説される諫早湾の干拓事業は、弱者を蹂躙してやまない国家による暴挙という面から、辺野古への土砂の投入を連想させずにはおかない。諫早湾の泥濘は国境を越えて、弱い者を取り巻く重圧の象徴なのだ。こうしたビジョンを、作家は先行者たる野呂邦暢から学んだようだ。

言語を超えた共鳴もある。「事件」を受けてフランスの黒人作家マリーズ・コンデが書いた小説から双子の移民が引用され、例えば長崎出身の男性と出会うといった変奏がなされることで、「世界文学」との邂逅が示唆されている。切実でありながら、批評的だ。

（河出書房新社・1728円）

評・岡和田　晃（文芸評論家）

仏襲撃事件の痛み探る

新刊抄

私に付け足されるもの

長嶋　有　著

人気作家の短編集。日常の中の小さな願望を描く12編を収録する。

「四十歳」の主人公は、仕事で訪れたウィーンで動物園を散策する秋美。日本語の若者言葉を操る同伴のオーストラリア人ジョシュに話した「トラに襲われたい」という自分の言葉を反すうする。

この他、道路の交通誘導員をする女性が「流浪」に心引かれる心情を描く「桃子のワープ」など、人からは見れば何ということもない、しかし個々にとってはさまざまな記憶と結び付いた生の重みを、丁寧に描き出す。

（徳間書店・1620円）

信仰と医学

帚木　蓬生　著

19世紀に聖母マリアが「出現」して以来、カトリック信者の聖地となったフランス・ルルド。作家で精神科医の著者が、その地で起きた「奇跡」について検証する。

貧しい境遇の少女ベルナデットはある日、洞窟で神秘的な存在と出会う。ルルドには多くの人が訪れるようになり、洞窟の水を飲むと病が治るという現象も報告される。

治癒は患者の期待によって生じる「プラセボ効果」であるとも言われる。だがそれ以上に、信仰と医学が融合する可能性を感じさせる一冊。

（角川選書・1728円）

東京格差

中川　寛子　著

丸の内や品川をはじめ、駅前など商業地の再開発が進む東京。人口の集中や五輪開催などを背景に、東京の地価は高いというイメージがある。だが著者は、そうした東京の内部では、都心・商業地などと、住宅地で、二極化が進んでいると指摘する。

また吉祥寺のような人気エリアでは今どんなことが起き、何が懸念されるのか。どこに住むか、どこに家を買うか。地価やサービス、利便性といった観点だけでなく、自分がどう住むかを大切にしたいと考えさせられる。

（ちくま新書・950円）

百人一首という感情

最果　タヒ　著

「千年後の百人一首」で百人一首の現代語訳に挑んだ人気の詩人。その挑戦は、歌を正確に現代語に移し替えるのではなく、言葉が生まれた瞬間の作者の感情に立ち返ることだったという。本書は一首一首が生まれた原点をたどるエッセーだ。

例えば八君がため春の野に出でて若菜摘むわが衣手に雪は降りつつ〉なら「目の前の緑に夢中になり、つい最近まで冬だったことも、少し肌寒いことも、忘れてしまっていたのかも」といった具合に、歌の魅力をみずみずしくよみがえらせる。

（リトルモア・1620円）

文庫往来

▷角田光代著「坂の途中の家」

娘と夫と暮らす専業主婦の里沙子は、乳幼児虐待死事件の裁判員裁判の補充裁判員になる。同じ母親として、被告に同情や軽蔑を感じながらも、裁判が進むにつれ、自分の境遇を重ね始め…。乳幼児虐待と家族の闇に迫る長編小説。（朝日文庫・778円）

▷梶山季之著「地面師　昭和ミステリールネサンス」

製薬会社による土地を担保とした資金調達の裏側に迫る表題作、スクープを狙う週刊誌記者を描いた「遺書のある風景」、自動車業界とタクシー業界の駆け引き「黒の燃焼室」など、昭和期の日本を舞台とした社会派ミステリー6編を収録。（光文社文庫・842円）

▷杉本貴司著「ホンダジェット誕生物語」

ホンダが開発した小型ビジネスジェット機「ホンダジェット」は、欧州や中国などで販路を広げている。2018年には、日本市場への参入を発表した。二輪車メーカーとしてスタートしたホンダはなぜジェット機事業への参入という壮大な野望を実現することができたのか。ホンダジェット開発の軌跡を描いたノンフィクション。（日経ビジネス人文庫・972円）

▷菅野仁著、たなか鮎子・絵「愛の本　他者との〈つながり〉を持て余すあなたへ」

「自己充実をもたらす活動」と「他者との交流」が同時並行的に実現されることは「幸福の純粋型」のスケッチだと著者は言う。「友だち幻想」でも知られる著者がつづる「幸福のデザイン」。（ちくま文庫・691円）

▷杉浦莉起著「1年で成果を出すP＆G式10の習慣」

何かをしようとする前に必ず「目的」を明確にする、ビジネスに関する全ての文書はA4サイズ1ページの「メモ」にまとめる―。人材育成に定評がある外資系企業に中途入社した著者が、客観的視点で捉えた「言葉」「考え方」「行動」の習慣を紹介する。（祥伝社黄金文庫・724円）

▷長山靖生編「文豪と東京」

漱石、鷗外から太宰まで、作家が東京の変容をどう描いてきたかをたどるアンソロジー。江戸趣味と西洋文学を往還する荷風、大川（隅田川）の水のにおいに東京を見る芥川。その間に挟まれた「九州日報」記者時代の夢野久作のルポが生々しい。関東大震災後の銀座、築地、日本橋を歩き、避難民と建物の崩壊状況を克明に報告している。（中公文庫・886円）

県からのお知らせ

※各記事の詳しい内容は㊞にお問い合わせいただくか、ホームページをご覧ください。

県有財産の一般競争入札

●入札物件／①石巻市成田字小塚裏畑16番4・宅地372.03㎡②遠田郡涌谷町字柳町17番1・宅地2,308.86㎡③栗原市若柳字川北原畑21番4・宅地349.66㎡（建物付き）④栗原市栗駒中野瓦焼場51番1・宅地400.69㎡⑤栗原市栗駒岩ヶ崎円鏡寺後45番4・宅地411.28㎡
●申込期限／2月28日(木)
●入札期日／3月15日(金)～19日(火)
●入札会場／県庁内会議室
㊞管財課 ☎022(211)2353
http://www.pref.miyagi.jp/site/zairi/

就職・転職のご相談は「出前ジョブカフェ」へ！

県内4地域で就職支援セミナーやキャリアコンサルティングなど、44歳以下の求職者を支援する「出前ジョブカフェ」を開催します(参加無料、要予約)。
●場所・日時／
①大河原町駅前コミュニティセンターオーガ・2月8日、15日、22日、3月1日(金)
②大崎市市民活動サポートセンター・2月5日、19日、26日(火)
③石巻サポートセンター(☎(0120)773161)・2月7日、14日、21日、28日(木)
④気仙沼サポートセンター(☎(0120)215488)・2月6日、13日、20日(水)
●予約・お問い合わせ／①②は下記、③④は各サポートセンターへ
㊞みやぎジョブカフェ ☎022(217)3562
http://www.miyagi-jobcafe.jp

冬道の安全運転1・2・3運動

冬道は、降雪や気温低下による積雪、圧雪、凍結のため道路が大変滑りやすくなり、交通事故が多くなります。

運転者は、「1割のスピードダウン」、「2倍の車間距離」、「3分早めの出発」を実践し、安全運転を心掛け、交通事故防止に努めましょう。

●運動の重点／滑走事故防止3原則(急ブレーキ、急ハンドル、急加速の禁止)の徹底
㊞総合交通対策課 ☎022(211)2438

食品中の放射性物質セミナー参加者募集

●内容／講演「食品中の放射性物質と健康への影響」(講師：福島県立医科大学附属病院放射線腫瘍学講座　佐藤久志氏)
●定員／50人(先着順)
●日時／2月20日(水)午後1時30分～3時30分
●場所／自治会館205・206会議室(仙台市)
●費用・申し込み／無料・2月13日(水)までにファクシミリまたはEメールにより下記へ
㊞食と暮らしの安全推進課
☎022(211)2643 FAX022(211)2698
Eメールsyokua@pref.miyagi.lg.jp

初級障害者スポーツ指導員養成講習会受講者募集

●対象／障害者のスポーツ活動の支援協力に興味のある方。また、将来にわたって地域の障害者のスポーツ活動の振興に貢献する意欲のある方
●開催日程／3月17日(日)・21日(木・祝)・23日(土)・24日(日)（全4日間）
●会場／セキスイハイムスーパーアリーナ・サブアリーナ
●定員／30人(超えた場合は抽選)
●受講料／5,000円
●申し込み／2月4日(月)から15日(金)までに所定の申込書に必要事項を記入し、郵送により下記へ
●提出先／宮城県障害者スポーツ協会
〒983-0836仙台市宮城野区幸町4-6-2
☎022(257)1005
●出場申込書／宮城県障害者スポーツ協会ホームページ(http://mpsa.jp)からダウンロードできます。
㊞障害福祉課 ☎022(211)2541

インターネットの安全利用

県警では、インターネット安全利用の合言葉「じょいふる」を用いて少年の犯罪被害防止を呼び掛けています。
じ「自画撮りしない送らない」
よ「夜はケータイ使わない」
い「いじわる言わない書き込まない」
ふ「フィルタリングで自分を守ろう」
る「ルールを親子で話し合おう」
※「じょいふる」で子供たちが安全にインターネットを利用できるようにしましょう。
㊞警察本部少年課 ☎022(221)7171

肝がん・重度肝硬変の方への入院費助成

「肝がん・重度肝硬変」の方への入院費助成を行っています。

定期的に指定医療機関で要件を満たす医療を受けている場合に、助成の対象となる可能性があります。入院している医療機関にご確認の上、対象となる場合は、県各保健所、仙台市各区保健福祉センターへ申請してください。
㊞疾病・感染症対策室 ☎022(211)2632
または上記申請先

高齢者講習の早期受講

70歳以上の方が、運転免許の更新手続きを行う際は、事前に高齢者講習を受ける必要があります。

講習は県内各地の自動車学校で行っていますが、大変混み合っています。

対象となる方には誕生日の約5カ月前に「高齢者講習通知書」というはがきを郵送していますので、はがきに記載されている自動車学校の中から、希望の学校を選び、早めに予約、受講するようお願いします。

詳しくは、下記へお問い合わせいただくか、ホームページをご覧ください。
㊞警察本部運転教育課 ☎022(211)2843
http://www.police.pref.miyagi.jp/hp/menkyo/kousyu/kourei.html

高校生地産地消お弁当コンテスト入賞作品が商品化されます

「地産地消」をテーマにした「高校生地産地消お弁当コンテスト」の宮城県知事賞・優秀賞を受賞した4作品が協賛企業のイオン、ミニストップ、みやぎ生協、ローソンによって商品化されます。お弁当の詳細や販売開始日などの情報は食材王国みやぎホームページ内の本コンテスト特設ページに掲載しますので、ぜひお買い求めください。
●食材王国みやぎホームページ
https://www.foodkingdom-miyagi.jp/
㊞食産業振興課 ☎022(211)2813

みやぎフラワーフェスティバル2019 バレンタイン

花や緑をより身近に感じていただくためのイベントを2月14日のバレンタインデーに向けて開催します。フラワーアレンジメントや寄せ植えなどのワークショップ、花を使った観客参加型デモンストレーション、花に関する展示・販売などを行います。
●日時／2月10日(日)午前11時～午後3時（体験受け付けは午前10時から）
●場所／au SENDAI イベントスペース（仙台市青葉区一番町 3-8-8）
●入場料・体験料／無料
●主催／宮城県花と緑普及促進協議会
㊞園芸振興室 ☎022(211)2843
http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/engei/kurashinihana11.html

県議会2月定例会開会

2月13日(水)午後1時から、2月定例会の本会議が開会される予定です。

本会議や委員会は傍聴できるほか、本会議の様子はインターネットでもご覧いただけます。

【ラウンジコンサート(閒会日)】
●日時／2月13日(水)午後0時15分～45分
●出演／ル・レーヴ(声楽)
●曲目／春のメドレーほか
㊞議会事務局総務課☎022(211)3571
http://www.pref.miyagi.jp/site/kengikai/

天皇陛下御在位三十年祝意記帳所の設置

●日時／2月24日(日)～25日(月)午前9時30分～午後4時30分
●場所／県庁1階玄関ホールおよび県の各合同庁舎
㊞秘書課 ☎022(211)2212

これからの復興支援を考えるNPOなどの地域会議

●内容／復興の課題を整理し、自団体の今後の活動を考えるワークショップ
●対象／復興支援活動を行うNPO、企業、行政、自治会の関係者など
●定員／各会場とも30人程度
●日時・場所／①2月20日(水)・石巻信用金庫あゆみ野支店大会議室②2月21日(木)・気仙沼市役所ワン・テン庁舎2階大ホール③3月1日(金)亘理町中央公民館2階団体室 ①②③午前11時～午後4時
●費用・申し込み／無料・2月15日(金)までに、所定の申込用紙に必要事項を記入し、ファクシミリまたはEメールにより下記へ
㊞共同参画社会推進課
☎022(211)2576 FAX022(211)2392
Eメールkyoshan@pref.miyagi.lg.jp

若年性認知症相談窓口

若年性認知症に関するお悩みを抱える方のために、専門相談窓口を設置していますので、お気軽にご相談ください。(相談無料、秘密厳守)
●相談／☎022(346)7068
いずみの杜診療所RBA相談室
●受け付け／月曜日～金曜日(祝日を除く)午前9時～午後4時
㊞長寿社会政策課☎022(211)2552

企画／宮城県広報課

JAROは、広告・表示のフェアプレイを推進しています。
公益社団法人 日本広告審査機構
電話でのご意見・ご相談
TEL:03-3541-2811 受付時間（土・日・祝日は休み）9:30～12:00/13:00～16:00
FAX:03-3541-2816 〒104-0061 東京都中央区銀座2-16-7恒産第1ビル
オンラインでのご意見
「JAROオンラインご意見箱」からもご意見を受け付けています。 JARO 検索